

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月21日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する力を育むためのカリキュラムを継続する。 ②主体的・協働的な学びを通じて生徒の学ぶ意欲を高める。	①多様な学習の機会を設け、基礎学力を定着させる。 ②生徒が主体的・協働的に学ぶ授業実践に向け、授業研究を継続して実施する。	①モジュール授業等において学習状況を把握するとともに学習習慣を確立する。 ①学習内容の習熟の程度に応じた、課題学習、補充的な学習などの個に応じた学習活動を取り入れる。 ②教科会を単元のまとまりごとに実施し、指導と評価の計画に基づく学習評価を行い、生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かす。	①学習の習熟度に応じた課題学習を授業全体に対して導入し、生徒の意欲を高めることができたか。 ①授業全体を通して、ICT 機器を適切に活用することができたか。 ②校内研究授業を計画的に進めることができたか。	①モジュール授業等において学習状況を把握して習熟度に応じた課題を授業で扱うことができ、無理のない授業のレベルが設定できた。 ①電子黒板の導入により、視覚から得る情報を増やすことができ、補充的な内容も取り入れることができた。 ②ICT を利用した授業作りをテーマに授業改善の研修会を2回行うことができた。 ②単元の終了ごとに、振り返りを行い、生徒の学習状況の把握に努めた。	①学習支援員等の人材を活用し、習熟度に応じた課題学習を授業内外で行い、学習意欲を高める。 ①電子黒板やクロームブックなどを活用し効果的な授業を展開し全体で共有していく。 ②ICT 活用能力の育成をテーマに授業改善の研修会を継続し、協働的に学ぶ授業をさらに発展させる。 ②単元ごとに指導と評価の計画の見直しを行い、指導の改善に活かす。	電子黒板が導入され、活用が進んでいることは非常に喜ばしく思う。更に学力向上に繋がる様に活用の工夫をお願いしたい。 ICT 機器のメリットを活かし、授業改善に取り組んでいる。生徒のためにさらなる指導の改善を進めてもらいたい。	①4月当初のモジュール授業において学習状況を把握し、習熟度に応じた個々の課題を設定できた。 ①電子黒板の導入により、積極的な活用ができた。特に視覚から得る情報を増やすことができ、学習意欲向上にもつながった。 ② ICT をテーマとし、授業改善の研修会を2回実施し、実践にもつなげることができた。	①学習支援員等のさらなる活用方法の工夫が必要である。学習意欲を高める授業改善にも取り組んでいく。 ②単元ごとに指導と評価の計画の見直しを実施し、指導の改善に生かす。 ②授業改善の研修会を継続し、来年度は協働的に学ぶ授業の実践につなげていく。
2	生徒指導・支援	①生徒の課題に応じた指導や支援を行うために教育相談活動を推進する。 ②学校生活のあらゆる場面を通して他者理解、自己理解を深め、社会性、規範意識を育み豊かな人間性を涵養する。	①全ての生徒が成長、発達の課題や困難を抱えているという認識をもち、校内外の関係機関と連携・協働し適切な支援を行う。 ②特別活動等さまざまな場面で生徒の他者理解、自己理解を進める。 ②「育てる」生徒指導を推進し、安全・安心な学校環境を築くとともに規範意識を育成する。	①個人面談や日常的な関わりから生徒理解を深め、学校全体で課題を共有する。 ①SC・SSW とともに連携して課題解決にむけて全ての教員で取り組む体制を構築する。 ②学校での共有体験を通して他者に配慮する姿勢や規範意識を身につけさせる。生徒への「言葉かけ」を積極的に行い生徒の社会性を高める。	①全ての生徒に対して、小さな課題を見逃さず、学校として情報共有できたか。また適切な支援ができたか。 ①SC・SSWを交えケース会議等の情報共有を実施できたか。 ②生徒の自己理解、他者理解を深め、社会の一員としての資質を高めることができたか。また、全ての生徒が安心して過ごせる教育環境を整えることができたか。	①定期的に教育相談の定例会を開いて、生徒の様子を共有し、課題解決に向けてチームで対応を考えることができた。 ①日本語を母語にしない生徒の支援について研修を行い、生徒理解を深めた。 ①外部機関の心理士による授業観察も行い、新たな視点を得ることができた。 ②安心して勉強ができる環境整備に取り組んだ。行事など他者との交流を育み、また生徒自身が自らを表現できるようになってきた。	①生徒自身から援助要請（相談）ができるように、生徒の相談スキルをあげる取組をしているため、生徒理解や支援方法について知識を深めるための校内研修を充実する。 ②信頼関係を築き他者理解を深める生徒指導・支援の推進を継続していきたい。	定時制では、様々な教育サポートが必要な生徒に対して、外部機関との連携が進んでいる。安心して勉強ができる学習環境の維持に努めている。生徒の安心のために継続してもらいたい。	①定期的に教育相談の会議を開くことで、生徒の様子を共有し、全職員での見守りやSC・SSWに繋げるなど、課題解決に向けてチームで対応を考えることができた。 ①外部機関と連携し、生徒支援の充実を図ることができた。SC・SSW・外部機関とのさらなる充実を図る。 ②安心して勉強ができる環境整備に取り組んだ。また、行事において他者との交流を育むことができるように工夫した。	①生徒の相談スキルをあげる取組が不十分だったので、生徒自身から援助要請（相談）ができる取組を実践する。 ①さまざまな課題を抱える生徒に対応するため、生徒理解や支援方法について知識を深めるための教職員向け校内研修を充実させる。 ②信頼関係を築き他者理解を深め、生徒自らから交流の輪を広げられるよう、教職員の支援体制を構築する。
3	進路指導・支援	①学年に応じた計画的なキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高め、希望進路の実現に繋	①生徒の進路希望の実現に向け計画的にガイダンスを実施する。	①外部機関と連携したキャリア教育により、勤労観や職業観を育み、進路について目標を持たせる。	①生徒の希望する進路実現に向け支援し、生徒一人ひとりが納得する進路実現ができたか。	①外部機関の講師から就労支援についての説明をもらい、生徒が進路について考える	①生徒の個性に応じて、進路に必要な支援について教育相談担当者・SC・SSW と連	卒業時に就職や進学先が決定できるよう更なる取組をお願いしたい。	①職業別ガイダンス講座では、職種の説明だけでなく、若者サポートステーション	①教育相談担当者・SC・SSW と連携しながら、早い時期から対応する

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月21日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		げる。 ②外部と連携したキャリア教育によって勤労観や職業観を育み、社会的、職業的な自立を促す。	②外部教育力を活用したキャリア教育を実施する。	②希望進路の実現に向けて必要な資質の育成を目指し指導・支援する。	②生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会の一員としての資質を身につけさせることができたか。	機会を増やした。 ②学習指導の中でも、生徒に自信をつけさせ自己肯定感を高め、社会人としての資質を向上させるような指導に努めた。 ②卒業予定者は、就職に加え大学や専門学校の進学希望者もいて、順調に希望する進路が決まった。	携しながら、早い時期から対応することで、生徒の進路活動に対する不安を軽減し自立に向けての意識を促していきたい。 ②職業観が持てないために、積極的に進路活動ができない生徒が増加している。インターンシップなど社会に繋がる体験の充実が課題である。		ンの講師による就労支援についての説明や実技を取り入れたことで、生徒が進路について考える機会になった。 ②積極的に進路活動ができない生徒が一定数いる。教職員からの声掛け等を増やし、生徒自ら行動できるように支援が必要である。	ことで、生徒の進路活動に対する不安を軽減し自立に向けての意識を促していく。 ②インターンシップなど社会に繋がる体験への参加を充実させ、卒業時に自ら希望する進路を実現させる生徒を増やすよう工夫する。
4	地域等との協働	①地域との協働において保護者との連携を深め、積極的に地域貢献活動を行う。 ②コミュニティスクールを活用した地域との連携をより一層深めるとともに、開かれた学校づくりを継続して推進する。	①地域貢献の一環として、地域の清掃活動を行う。 ②地域に生徒が貢献できるような、教育活動を実施する。	①地域清掃を設定し、地域交流を推進する。 ②避難訓練等、地域との連携を図る。	①地域との連携した活動を工夫して行うことができたか。 ②特別活動の場において、生徒が積極的に地域を知ることができたか。また積極的に交流することができたか。	①7・12月に地域清掃を実施した。ここ数年、地域の方と一緒に清掃活動ができていないが、実施については地域の方にも広報した。 ②コミュニケーションが苦手な生徒が多い上に生徒数も少なく、行事等で地域の方と交流ができていない状況である。	①地域清掃の回数など地域に貢献する方法を生徒と考えていく。また、普段から地域の方に見守られているという意識を持てるような取組を検討する。 ②定時制の文化発表会での交流等を考えていきたい。	定時制の時間帯での地域連携は実現が難しい。 現状として、災害時に高齢者ばかりの町内会組織では物資を運ぶことや、力仕事はできない。各地域に住んでいる中高生の力が非常に重要になるので、ぜひ生徒には自分の住んでいる地域の避難訓練に参加してもらいたい。	①地域清掃を実施する際に、地域の方と一緒に清掃活動ができてはいないが、実施については地域の方にも広報した。 ②コミュニケーションが苦手な生徒が多い上に生徒数も少なく、行事等で地域の方と交流ができていない状況である。	①地域清掃、防災訓練など地域のつながりを検討する必要がある。時間帯などの工夫も検討していく。 ②定時制の文化発表会での地域住民の参加、見学含め交流企画を検討していく。
5	学校管理 学校運営	①HP等のツールを活用し、本校への理解を深める。 ②教職員の仕事を引き続き精査し、組織的な学校運営を進め、校務の効率化を図る。	①HPの更新を適切な時期に実施する。 ②ICTの活用により、情報共有を徹底する。	①HPにおいて、適切な情報の発信を行い、定時制への理解を深める。 ②ICTの更なる活用により、教員間の情報共有を円滑にし、グループ横断的な視点を持てるようにする。	①HP等で適切な情報を掲載することができたか。 ②教員間での情報共有が徹底できたか。また、全体的な視点をもって個々の職員が業務にあたることができたか。	①学校説明会などのHP上の更新は適切な時期に掲載ができた。 ②Teamsのチャット機能を活用し、教員間の情報共有ができた。	①定時制への理解を深められるような情報発信に努める。 ②全職員が全体的な視点で課題を見つけ、解決に向け共有できるようにする。	校務の効率化を図り、業務分担の見直しを実行している。教職員の健康を第一に考えて改善に取り組んでもらいたい。また、HPをはじめとしたツールを活用し、学校からの積極的な情報発信の充実を図ってもらいたい。	①HPの定期的な更新ができていない。広報活動も含め、整理が必要である。 ②Teams等を活用することによって、教員間の情報共有が徹底できた。	①日々の活動の掲載など、定時制への理解を深められるよう情報発信に努める。 ②教職員の健康管理に努め、業務への取り組み方を改善していく。